

平成 31 年度 研究推進計画

1 学校教育目標

自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成

～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～

(1) めざす学校像

- ① 自信と誇りが持てる学校
- ② 温かい人間関係で結ばれた学校
- ③ 保護者、地域と共に成長する学校

(2) めざす生徒像

- ① 自らきちんと挨拶のできる生徒
- ② 意欲を持って探究心のある生徒
- ③ 部活動、学校行事に燃える生徒
- ④ 自他を大切に思いやりのある生徒
- ⑤ 美しいものに感動し、一生懸命な姿に共感する生徒

(3) めざす教師像

- ① 自らの資質向上に努め、授業で勝負する教師
- ② 生徒とともに汗を流す情熱を持った教師
- ③ チームとしてまとまって協働する教師
- ④ 生徒の範となる向上心と信念を持った教師
- ⑤ 地域の一員、常識ある社会人である教師

2 研究主題

「自主・自立を促し、主体的に学び活動する生徒の育成」

～言語活動の先にある協同的探求を目指して～

3 主題設定の理由

「意欲を持って学習に取り組ませること」こそが、子ども達の自主・自立の精神を高め、自
尊 感情を育て、落ち着いた学校生活を生む。また、生徒理解に基づいた生徒指導や学級経営も、
生 徒の心の安定を生み、登校意欲や学習意欲を育てる。本校では、「わかる授業づくり」と「生
徒 指導」とを2大柱として、授業研究をこれまで進めてきた。「授業が楽しい」「今日はこの学
習 がわかった」と生徒に実感させるための「手立て」と「場づくり」について、職員全員で、
指導 案を検討、授業研究を行っている。

主体的・対話的で深い学びが教育の基本として取り入れられることとなった今、我々教員は、
自主的に考え、学ぶことができる生徒を育成することが求められている。そのためにすべきこ
と
は、授業での学習活動で、数年来本校が取り組んでいる協同学習などの取り組みを、より発展
さ
せる必要があると考える。今後は、「言語活動の充実」の先にある「協同的探求」を目指して
授 業研究を行い、各教科において協同的探求のねらいや、そのねらいに即した学習活動について
の 研修を深め、発展させていかなければならない。また、授業のみならず学級経営においても、
こ のスキルを活用することで、生徒の主体性をより高めていくことができると考える。

そのことから、今年度の研究において、「主体的に学び活動する」ことが授業の工夫・改善
の ねらいであること、そのための効果的な手段として「協同的探求を取り入れた授業」について
各 教科で「手立て」「場づくり」を工夫することを全教員がこれからも共通理解し、「自主的に
学 ぶ」、「基礎基本に基づいて考える」、「自分の意見が発表できる」生徒を育むために、日
々の実 践に活かせる研究を行うこととした。

一方、定期テストや全国学力状況調査の結果や生徒の学習の様子から、家庭における学習習慣が確立しておらず、基礎学力の定着が不十分な生徒が多いことが、問題点として長年指摘されている。家庭学習を充実させることが、基礎学力の定着を促し、学習に取り組んだ充実感、満足感や自信、学校生活に対する意欲の向上につながる。現在まで取り組んできた「My学ノート」

(※1)と「Weekly 課題」を組み合わせ、実力の定着に必要な学習をより啓発・充実させていくことで、学習意欲を高め、学力向上を図る必要があると考える。以上のことがらを鑑み、本年度のテーマを設定した。

(※1) My学ノート・・・ノートに毎日1ページ以上勉強をして、翌日担任に提出。9教科のうち、
どの教科を勉強してもよい。

4 研究内容とその方法

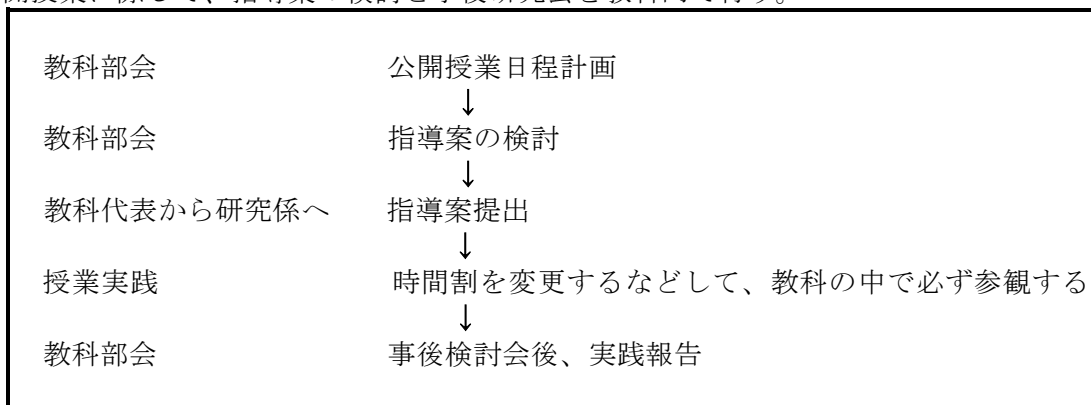
(1) 「確かな学力」を身につけさせるための授業研究

研究内容

- ① 自主的な学習活動を取り入れた授業について研修を深める
 生徒の思考力・判断力・表現力を育てるために、各教科において言語活動を重視した学習活動を取り入れた授業づくりをする。また教師の授業力アップのため、充実した校内研修会を行う。
- ② 授業のはじめに「本時の目標」を示し、授業の最後に「振り返る」活動を取り入れる
 目標は、教師自身がねらいを明確にするとともに、生徒にもつけたたい力がはっきり分かるように示す。また、授業最後の振り返りは、生徒の学習内容の定着や、授業に対する意欲、関心の向上につながり、教師自身の振り返りにもなる。授業は、目標と評価が直結していなければならないこと、この活動が授業改善につながることを教師全員が意識して授業を行う。
- ③ つけたたい学力を明確にした指導案づくりを行う
 年間指導計画にそって各単元の指導計画を立てて授業を実施する。その単元でつけたたい力や育てたい力を具体的な行動目標として設定し、そのためにどのように授業をするかという教師の具体的な手だてを指導案に示す。
- ④ これまで培ってきた言語活動（協同学習）などのスキルを『学級経営』に活かす

研究方法

- ① 研修会
 「学習意欲をわかせる学習活動」「主体的・対話的で深い学びを意識した学習活動」「学級経営」についての研修を行う。
- ② 公開授業
 ・各教科において年1回、研究主題に沿って公開授業を行う。
 ・公開授業に際して、指導案の検討と事後研究会を教科内で行う。

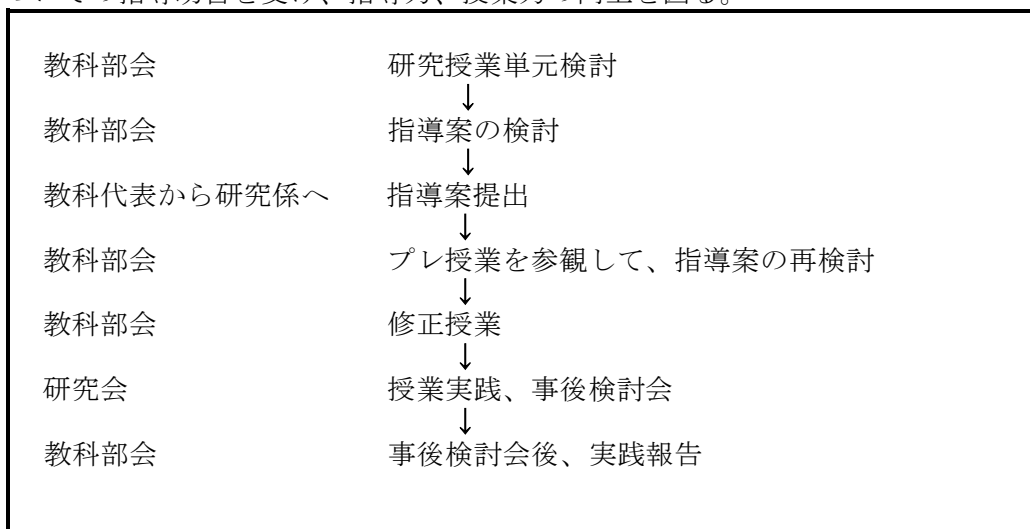


- ③ 校内授業研究会
 ア 研究授業 （ 1学期：社会 2学期：理科 3学期：美術 ）
 イ 事後研究会 ※学期に1回、6月、11月、2月に実施

- ・生徒の思考力・判断力・表現力を育てるための言語活動を取り入れた授業づくりに絞って協議することにより、授業力向上を図る。
 ・「自主的活動は授業の内容に即し効果的だったか?」「学習活動でどのように学習が深まったか?」「学習内容を深めるために、他の手だてはなかったか?」に焦点をあてた授業分析を行うことで、生徒につけたたい力を明確にし、研究テーマの深化を図る

る。

- ・ 外部講師から、本日の授業の振り返りを通して、研究推進の方法、内容、方向性についての指導助言を受け、指導力、授業力の向上を図る。



- ④ 毎月1～2回（原則）、研修会を実施し、教科内や教科間で指導方法の交流を図る。
研修会の日は原則として部活停止とする。

（２）フォローアップのための具体的な方策

① Cの生徒への支援の方法

- ・ 教師が意図的につくった学習の「場」の中で十分な学習活動ができない生徒（Cの生徒）に対する具体的な支援の方法の検討。
- ・ 机間指導において、生徒の「やる気がでる」支援の方法を研修する。

② 単元テストや課題の実施について

- ・ 授業の中に、基礎的な事項を定着させるための繰り返し学習、単元テスト、協同学習を取り入れる等、よりていねいに習熟させる方策や評価についての具体的な取り組み方を検討する。

③ 家庭学習のフォロー

- ・ 「家庭学習の手引き」再編集のため、研究推進委員会〔校長、教頭、研修計画、評価検討、教育課程、教科指導、道徳人権、総合的な学習、学活、生徒会〕や教科代表者会で検討を進める。
- ・ 「家庭学習の手引き」の活用方法や「My学ノート」の取り組みの中身の充実について検討・実施する。（※内容充実のためのアドバイス・プリントを各学期初めに配布）
- ・ 宿題の提示の仕方や、取り組み方について検討・実施する。

④ 学習の補充

- ・ 全学年による終礼学習、土曜スクール、基礎学力の定着が不十分な生徒に対する、学習相談、放課後学習、長期休業中の学習相談、個別指導等を実施する。
- ・ 終礼学習の方法について検討・実施する。（※新聞コラム欄を使った、要約文の作成）
- ・ Q U（全学年）、C R T（1，2年）テストの実施とテスト後の活用
- ・ グループ学習をはじめ、学習に必要な基礎的能力（聞く・書く・話す）のベースアップを図るべく、週2回のコミュニケーション・トレーニングを実施

（３）生徒指導との連携

- ① 校内巡回を活用して、積極的に授業参観を行う。
② 個別に対応しなければならない生徒に対する学習方法について検討・実践する。

- ③ 教育支援委員会との連携を密に図り、個々の生徒の能力に即した支援を検討・実践する。

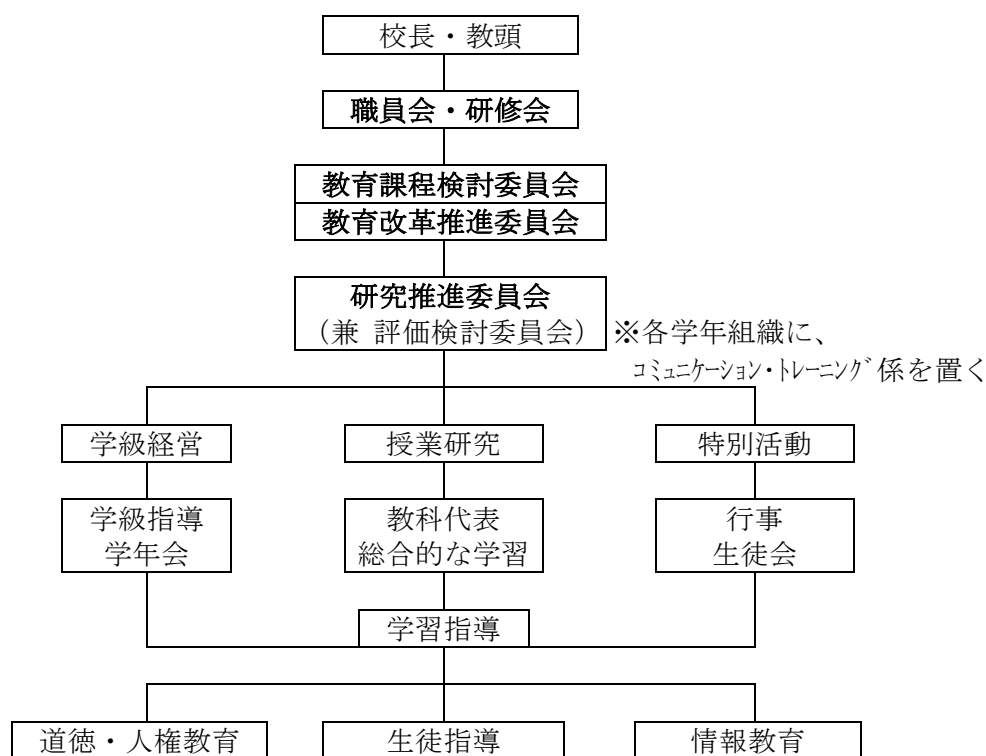
(4) 若い教師の指導力向上

- ① 自主研修の計画をし、若い教師が学べる体制作りをする。
- ② ベテラン教員と連携し、O J Tによる指導力アップを図る。

(5) 小中の連携

- ① 小中学校での「学び」の情報交換を行う。
- ② 研修会の相互参加や合同研修会などの小中交流活動を進め、学習指導の一貫性をめざす。

5 研究組織



- ・ 研究推進委員会（研究係会）
全体の研究計画立案、各部の連絡調整、評価の検討
- ・ 職員会・研修会
研究内容の研修、深化、共通理解
- ・ 教育改革推進委員会
新学習システムの検討
- ・ 教育課程検討委員会
教育課程の検討・提案
- ・ 総合的な学習担当
総合的な学習のカリキュラム、つきたい力、評価の検討
- ・ 教科代表者会

学習 「学習意欲をわかせる学習活動」「学力を自主的に身につけさせることを重視した活動」を意図的に設定し、その場面設定のための手だてをうった授業を行うための研究

- ・学級指導担当
個々の生徒理解のための手だての研究、規範意識や自治意識を醸成する手だての研究
- ・学年会
学習規律、生活規律、学級経営の相互点検と研修
- ・生徒会担当
自治意識を醸成するための委員会活動の運用
- ・情報教育担当
情報機器の整備、校内文書管理システムの構築、情報機器活用の研修会
- ・生徒指導担当
生活規律確立の方策の検討
- ・学習指導
家庭学習を習慣づけるための方策、低学力生の学力補償の方策検討
- ・道徳人権教育担当
規範意識や人権感覚、友達と協力する気持ちを育てる授業研究
道徳の授業の教科化に向けた、指導体制、評価の研究

6 校内研究・研修会内容

(1) 授業研究会

- ① 実施日
- | | | |
|------|-----------|---------------------|
| 第1回目 | 6月18日(火) | } ※5校時研究授業、6校時事後検討会 |
| 第2回目 | 11月28日(月) | |
| 第3回目 | 2月25日(火) | |

② 上記実施以外に、教員全員が公開授業を実施(教科ごとに実施の割り振りをする)

- * 行事や3学年が学校に揃っていない時には公開授業は実施しない。
- * 時間割や空き時間を利用し、全教科が教科部会を実施する。

(2) 研修会の予定

月	内 容
4	職員会 ・平成31年度研究推進計画 ・研究方針 ・組織提案 ・「家庭学習の手引き」の活用について ・My学ノートについて(内容の充実を図るためのプリント配布等) 研修会① ・指導案の提案、共通理解事項の確認 ・教科部会(公開授業計画)
5	研修会② ・校内研修会
6	研修会③ ・「校内授業研究会」、事後検討会、指導助言 指導助言
7	研修会④ ・夏季研修会(※)

8	研修会⑤	・夏季研修会（※）
10	研修会⑥	・校内研修会
11	研修会⑦	・「校内授業研究会」、事後検討会、指導助言 指導助言
12	研修会⑧	・教科部会
1	研修会⑩	・校内研修会
2	研修会⑫	・「校内授業研究会」、事後検討会、指導助言 指導助言
3	研修会⑬	・1年間の総括、来年度に向けて ・教科部会（「家庭学習の手引き」見直し等）

※夏季研修会には、授業研究、学級経営、道徳教科化研修、生徒指導研修、小中連携等々、本校の課題となる研修を企画する。

<その他>

1 校内授業研究会の教科

平成30年度	①英語	②音楽	③技術/家庭
?? 元年度	①社会	②理科	③美術
?? 2年度	国語 数学 体育		

←前年度に検討

2 校内研修会の日程について

- 4月23日(火) … 今年度の研究について
- 5月 日() … 自主研修会
- 6月18日(火) … 第1回校内授業研究会（社会） ※
- 7月 日() … 【夏季研修会Ⅰ】
- 8月 日() … 【夏季研修会Ⅱ】
- 10月 日() … 自主研修会
- 11月18日(月) … 第2回校内授業研究会（理科） ※
- 12月下旬 … 教科部会
- 1月 日() … 自主研修会
- 2月26日(水) … 第3回校内授業研究会（技術/家庭） ※
- 3月 未定 … まとめ、教科部会

< 荒牧中学校研究の取り組み まとめ >

- ①「学級経営スキル」の向上→「学級経営方針」の確認・共有
- ②「家庭学習の手引き」を生徒（全教室）に配布
- ③授業における、規律（スタイル）の統一（『本時の目標』『ふり返り』等）
- ④教師全員が、年一回の公開授業を実施（教科部会での検討を密にする）
※学期に一回、“公開授業週間”を設定し、その期間中に各教科で割り振る
- ⑤各学期に一回、校内授業研究会 実施（年度当初に実施教科を抽選）

- ⑥My学ノート(家庭学習ノート)は自主的な学習として継続する
- ⑦Weekly 宿題は、**5教科に返す。(廃止)**
- ⑧終礼学習時に、新聞『天声人語』『コラム』を使用した取り組み(1・2年)
 - ※各学年の研究担当と学習委員担当とが連携し、定期的に作業内容を精査する
 - ※3年に関しては、受験に対応した取り組みを検討
- ⑨週2回のコミュニケーション・トレーニング 継続実施(※学年組織に係を設置)
- ⑩年2回の Hyper-QU 実施